

未来につながる教育

1. 教育を考える一言

私が教育を考えることとなった一言は、嘉納治五郎(1860-1938)という人物の残した「教育之事天下莫偉焉。一人徳教広加万人。一世化育遠及百世。」(教育のこと、天下これより偉なるはなし。一人の徳教広く万人に加わり、一世の化育遠く百世に及ぶ。一書き下し文、筆者注)という言葉です。

2. 背景

この一言は嘉納治五郎が東京高等師範学校の校長を務めていたとき、大正期に入ってから残したものとされています。一般的に嘉納は柔道を創始したことで有名ですが、東京(高等)師範学校の校長を務めるなど教育者としての生涯を送った人物でもありました。しかし、彼の人生は当初から教育者を目指していたとはいいきれません。嘉納は商人の家の生まれで、1877年開学当初の東京大学に入学し、政治学及び理財学(経済学)を専攻していたからです。殖産興業の時代のなか、東京大学を卒業して政府の官僚にも実業家としてもその人生も歩めたはずなのですが、そのような時代のなかで教育に価値を見出し、教育の力を信じてその生涯を教育にささげた嘉納が上の言葉を残していったことは注目に値します。嘉納の学んだ功利主義思想や漢文の素養などの影響を受けてその言葉が生まれたのかその真意は定かではありませんが、教育は偉大なもので、徳の教えは万人に伝わり、その教えが遠くのちの世にも続いていく、ということを師範教育の場で伝えていった言葉とされています。

3. 考察

どんな人間でも、どんなにすばらしい教育者でも、その人生のなかで自身の教えを授けられるのは人数的にも時間的にも範囲は限られます。しかし、その人が亡き後もその教えは時代を超えて受け継がれ、遠い未来へも影響を及ぼすことがあるということをこの言葉は示唆しており、このことを教育に従事する者は十分に覚悟して教育に臨む必要があるでしょう。そのため私自身、この言葉の意味するところを十分に留意したうえでこれからの教育という営みに従事していきたいと思います。また、昨今の日本は教育に金をかけないという批判があり、たしかに人件費のコストが大きい教育分野は財政にとって大きな負担になりますが、教育が遠く未来に影響を及ぼすという示唆からすれば、日本の将来のこれからを担うためにも教育に対する予算をより重視していくことが望まれます。

引用・参考文献

嘉納先生伝記編纂会編『嘉納治五郎』講道館、1964年

長谷川純三『嘉納治五郎の教育と思想』明治書院、1983年

講道館『嘉納治五郎大系』全14巻、本の友社、1989年

生誕150周年記念出版委員会編『嘉納治五郎 気概と行動の教育者』筑波大学出版会、2011年